



- P. 2 エンパワメント・ファシリテーター研究会
- P. 3 \広げよう／子どもの権利条約キャンペーン
- P. 4～5 体罰によらない子育てのために 2020 キャンペーン
- P. 6～9 SAY の会 活動報告
- P. 10～12 HR プロジェクト 活動報告
- P. 13 中区子育てひろば
- P. 14～16 講演会 レポート
- P. 17 休校へのESの取り組み
- P. 18 大阪マラソン応援のお礼・ローズカーニバル
- P. 19 活動報告 裏表紙 事務局からのお知らせ

## エンパワメント・ファシリテーター研究会 Vol.6

### めざせ！エンパワメンター

Vol.6 クールがはじまります。

はじめて経験・体験する新鮮さも貴重。そのワクワク感を社会に活かす。1人ひとりがかもつ感情や思考を深めながら個から社会につなげていく。

あなたもエンパワメンター！<縁<sup>エ</sup>力<sup>カ</sup>メンター>

あなたの縁（出会い、関わり、つながりなど）の力を磨きませんか？

また、えんぱわめんと堺/ESの展望として、2022年度には開校をめざしたエンパワメンターを軸にした養成事業（？）も検討中。教育にとどまらず、福祉や行政に展開していきます。

ご期待ください。



子どもおとなもさまざまな可能性、力を持っています。

本来持っている力をふくらます、エンパワメントの関わりで、ファシリテートをしていく”エンパワメンター“をめざしませんか？ともに学びましょう。

参加費一回につき 一般：3000円（学生：2000円）賛助会員：2000円 正会員：1000円

新型コロナウイルス予防対策のため、余儀なく変更となる場合もあります。ご了承ください。

1

\*わたし編「わたしに気づく」～エンパワメンターとわたし～

5月30日（土）9：30～12：00 場所 堺市総合福祉会館 研修室

2

\*わたし編「わたしにできること」～エンパワメンターとしてのわたし～

6月30日（火）13：30～16：00 場所 堺市総合福祉会館 研修室

3

\*あなた編「ちがいに向き合う」～エンパワメンターのホットボタン～

7月31日（金）13：30～16：00 場所 堺市総合福祉会館 第1会議室

4

\*あなた編「対立から学ぶ」～エンパワメンターに必要なこと～

8月31日（月）13：30～16：00 場所 未定

5

\*みんな編「気づきから築きへ」～エンパワメンターとしてアクションを起こす～

9月30日（水）13：30～16：00 場所 未定

# ＼広げよう！／ 子どもの権利条約 キャンペーン

＼広げよう／子どもの権利条約キャンペーンは2年目に入ります。2020年4月からの改正児童虐待法、改正児童福祉法が施行されたことで、親からはもちろん、親以外の監護・教育をする権利を持たない者も含む全ての人が、子どもに体罰をすることは禁止になりました。(4.5ページ参照)

これは、子どもの人権を守る為の大きな一歩です。

体罰以外にも国連子どもの権利委員会から、日本の政府が勧告を受けていることは、数多くあり、まだまだ子どもの権利が十分に守られていません。

詳細は、平野裕二さんのサイトに、『2019 子どもの権利委員会からの総括所見(日本語訳)』全文があります。コロナ感染症拡大にて自粛中止となった3月7日の当団体主催の講演&シンポジウムにて「国際的な視点から見た日本の子どもの権利の現状と今後」を平野さんに話して頂く予定でした。

(マニアックな人だけ見てください by 平野さん)

<https://w.atwiki.jp/childrights/pages/319.html>

以下ピックアップ : : : : :

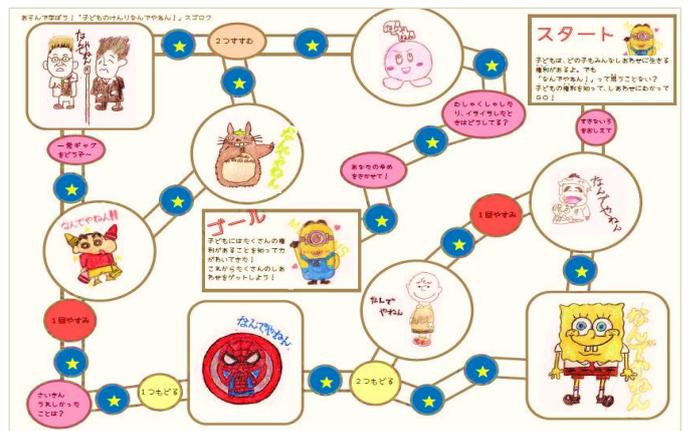
- \* 持続可能な資源をともなった遊び・かつ余暇および自由な遊びのための時間を子どもに配分する
- \* 効果的ないじめ対策、学校における反いじめプログラムおよびキャンペーンを実施すること。
- \* ストレスの多い学校環境(過度に競争的なシステムを含む)から子どもを解放するための措置を強化すること。
- \* 貧困家庭の子どもの生活水準の問題
- \* 震災による放射線、避難している子どもの問題
- \* 子どもの自殺の根本的問題を調査すること
- \* 子どもの意見の尊重、意見を聞かれる権利の問題
- \* 思春期の子どものセクシュアルヘルスおよびリプロダクティブヘルスに関する教育の確保
- \* 家庭を奪われた子どもの代替的養育の問題

\* 障がいのある子どもについて、インクルーシブ教育を発展させかつ実施する。

\* 学童保育の人員基準の問題とサービスがインクルーシブであること

\* 子どものネグレクト・性的虐待、JKビジネスなどに利用される問題

\* 非婚の両親から生まれた子ども、民族的マイノリティ、その他マイノリティの子どもに対する差別・外国籍の子ども達の問題



2019年度『子どもの権利条約ネットワーク関西』で、子どもの権利条約を学ぶツールを開発しました。学校や地域、家庭の中で「なんでやねん! おかしい!」と思うことない? 当事者視点で遊びながら、自分自身が権利の主体であることに目覚める「なんでやねん! すごろく」が完成。2020年度はさらにすごろくツールをブラッシュアップするために、地域に出向いてワークショップを開催します。

「なんでやねん! すごろく」の製品化と、今ある物を学校や子どもに関わる団体が、HPからダウンロードして自由に使ってもらえるようにデータ化予定。小学校・中学校の道徳科の授業などで教材として利用され、子ども・おとな全ての人に子どもの権利の理解を広げていくことをめざします。ぜひ、「なんでやねん! すごろく」を体験してください。(あーみん)

## 体罰によらない子育てのために 2020 キャンペーン

\* みんなで育児を支える社会に \*

2020年4月児童虐待防止法と児童福祉法が改正されました。これを踏まえて、子どもの権利が守られる体罰のない社会を実現していくためには、一人ひとりが意識を変えていくとともに、保護者だけが子育てを担うのではなく、支援も含めて社会全体で取り組んでいかななくてはなりません。

この法律が改正された背景には、児童虐待の相談対応件数が増加の一途を辿っているという日本の現状と、保護者が「しつけ」と称して暴力・虐待を行い、子どもの命が失われるという痛ましい事件が続いたからです。記憶に新しい東京都目黒区の事件・千葉県野田市の事件は幼い命が奪われました。

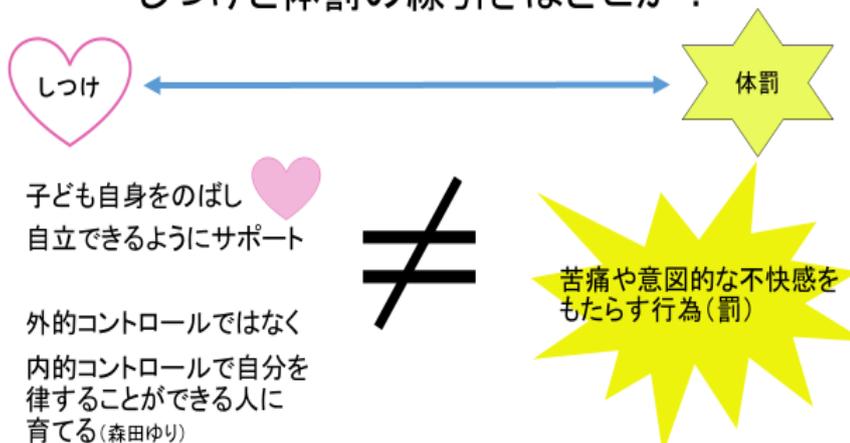
国際的な動きをみると、1979年に世界で初めてスウェーデンが体罰を禁止して以降、1990年に発効した児童の権利に関する条約に基づき、58ヶ国が子どもに対する体罰を法律で禁止しています。日本も1994年にこの条約に批准し25年になりますが、社会には「しつけのために子どもを叩くことはやむを得ない」「愛のムチだ」という体罰容認意識が根強く存在しています。国連児童の権利委員会から数回にわたり体罰禁止の法制化と共に、啓発キャンペーンを行うべきとの勧告を受け、日本はようやく2020年に世界で59番目の体罰禁止国となりました。

スウェーデン(1979年法改正)



スウェーデンの先行事例を見ると、1960年に体罰を用いる人が100%近い状況から、30年後には20%に、40年後にはほとんどなくなっています。日本のデータでは約6割の人が体罰はいたし方ないと考えており、「しつけの一環として子どもを叩いたことがある」と答えた人は7割とあります(セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 2017) 法律が改正したことと併せて、体罰によらない子育てを啓発していくことで、次世代の子ども達の生命、人権を守ることができます。私たちも意識改革をする時です。まずは法律改正を知り、子ども達が安心して自信をもち自由な気持ちで生きていける社会へ。そして多様なおとなが地域の子育てを共に支えていく社会へ、変革していきましょう。

### しつけと体罰の線引きはどこか？



しつけと体罰は同じ線の延長線上にあるのではなく、全く別物です。体罰(叩いたり、怒鳴ったり、物を投げたり)で言動を制限すると、一時的には言うことを聞くかも知れませんが、しかし、どうすればよいのかを自分で考えたり、学んだりしている訳ではありません。根本的な解決にならず、むしろ子どもに暴力的な言動のモデルを示すこととなります。何より子どもの自己肯定観が育めず、将来的に自分を大切にできる力も弱まります。

## こんなことしていませんか？

- 言葉で3回注意したけど言うことを聞かないので、頬を叩いた
  - 友だちを殴ってケガをさせたので、同じように痛みをわからせるために、子どもを殴った
  - 宿題をしなかったので、夕食を与えなかった
  - 大切なものにいたずらしたので、長時間正座をさせた
- これらは全て体罰です

## 体罰以外の暴言等の子どもの心を傷つける行為

- 怒鳴りつける ○けなす ○辱める
  - 笑いものにする ○子どもの品格を貶める行為
  - 冗談のつもりで、お前なんか生まれてこなければよかった、と存在を否定する。やる気を出させるためにという口実できょうだいを引き合いに出して、比較しけなす
- これらも子どもの権利を侵害します

### 体罰によらない子育てとは？具体的な工夫のポイント

#### 【子どもの気もちや考えに耳を傾けてみる】

自分の気もちを受け止めてもらえたという体験によって気もちが落ち着いたり、大切にされていると感じたりします。

#### 【言うことを聞かない、にもいろいろあります】

親の気をひきたい、子どもなりに考えがある、言われていることを理解できない、体調が悪いなど様々です。

#### 【子どもの成長・発達によっても異なることがあります】

子どもの年齢や成長・発達の状況に差があることもあり、そのばらつきによって子ども自身が困難を抱えているときには、それに応じたケアが必要なこともあります。

子育てはいろいろな人の力と共に



ふわふわり。

#### 【子どもの状況に応じて、身の回りの環境を整えてみる】

例えば、危険なものに「触っちゃダメ！」と叱るより、手の届かない所に置くなど、環境を変えることでイライラすることが減ることもあります

#### 【注意の方向を変え、子どものやる気に働きかけてみる】

時間的に可能なら、待つことで行動が変化するかもしれません。場面を切り替える、好きなこと・楽しく取り組めること等、子どものやる気が増す方法を意識してみましょう

#### 【肯定文で分かりやすく、時にはお手本を示してみる】

子どもに伝える時は、大声で怒鳴るよりも、「ここは歩こうね」など、何をすべきか具体的に、穏やかに落ち着いた声で伝えると分かりやすいです。

#### 【良いこと、出来ていることを具体的にほめましょう】

良い態度や行動を褒めることは、子どもが嬉しいだけでなく、自己肯定観を育むことにもなります。何が良いのか具体的にほめると、より伝わりやすくなります

## 保護者自身の工夫

子育ては、ストレスが溜まることもあります。また子育て以外でもストレスは溜まるものです。否定的な感情が生じた時は、そういう気もちに気付き、認め、子どものことが原因なのか、自分の体調の悪さや、忙しさ、孤独感など自分自身のことが関係しているのかなど振り返ってみると、少し落ち着くことがあるかも知れません。

自分の状況が関わっているときは、深呼吸をしたり、リラックスできる音楽を聴いたり、お風呂にゆっくりつかる時間を確保したり、時には保護者自身が休むことも必要です。

\*周囲の親族や地域住民、NPO、保育等の子育ての支援者、保健・医療・福祉・教育現場等で子育て中の保護者に接する方は、子育て中の保護者が孤立しないようにサポートしていくことが大切です。

**体罰をしてしまう親を罰する為ではなく、体罰によらない子育てが出来るように、社会全体みんなで子育てを支えていくことが目的です**

一人で、親だけで頑張るのは、とても大変なことです。子どもを育てる上では、支援を受けることも必要であり、困った時は相談してください

◎児童相談所相談専用ダイヤル 0570-783-189 (なやみ・いち・はや・く)

◎児童相談所虐待対応ダイヤル 189 (いち・はや・く)

◎堺市子育て支援センター 各区の子育て支援課へ

◎ファミリーサポートセンター 072-222-8066

(はしもと)

# SAYの会

2019年度第162回指導者のための避妊と性感染症予防セミナー  
SRH（セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス）セミナー  
～プレコンセプション・ヘルス・ケアを考える～ 研修報告

SAY（性・生）の会では2019年度大阪府内の子ども11校2団体2170人、おとな10団体（内6校小・中・高・大学教職員）544人合計2714人にプログラムを届けました。\*1

そして2020年度実施に向けての研修として、2020年2月15日大阪開催「2019年度第162回指導者のための避妊と性感染症予防セミナー・SRH（セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス）セミナー」に参加しました。今回のテーマは「プレコンセプション・ヘルス・ケアを考える」。講師は、国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター 診療部長 荒田尚子氏、大阪大学大学院医学系研究科産科学婦人科学教室 講師 上田豊氏、日本家族計画協会 理事長・家族計画研究センター 所長 北村邦夫氏です。

「プレコンセプション・ヘルス・ケア」とは何なのでしょう？

「女性やカップルに将来の妊娠のための健康管理を提供すること。目的は、産むか産まないかにかかわらず、若い世代の男女の健康を増進し、より質の高い生活を送ること。より健全な妊娠・出産のチャンスを増やし、次世代の子どもたちをより健康にすること」です。



私たちは子どもの頃からおとなになるまで、自分自身のからだや健康についてどれくらい学ぶ機会があるでしょうか。またそのからだの健康を生涯通して維持、増進するために、思春期の頃から性と生殖について包括的に学習することの大切さに、どれほど気づいていたでしょうか。さまざまな疾患を予防し、年齢に応じたからだの変化を知り人生計画を立てること、妊娠・出産を自分自身で選ぶことができるために、10代から自分自身のからだについて学び、ケアすることがプレコンセプション・ヘルス・ケアです。感染症、疾患、薬剤や酒・たばこなどの影響による、妊娠合併症、低出生体重児分娩や早産、男女ともに不妊等のリスクが高くなることを学び、口腔ケアやワクチン接種、バランスのよい食事と運動の必要性についての健康情報を得てヘルスリテラシーを高めていきます。また、現代女性は初経を迎える年齢が早まり初産までの期間が長いことと、昔の女性よりも出産回数

が少ないことから、生涯の月経回数が増加しているそうです。(昔 50~100 回現代 450 回) その影響から、子宮内膜症や卵巣がん、子宮体がん、乳がんのリスクが高まっているとのこと。女性は、かかりつけ医を持ち日頃から検診や受診し予防を心がけることも大事であるとしています。国立成育医療研究センター著作プレコンセプション・チェックシート女性版・男性版を後ページに添付しています。一度チェックしてみてください～  
私たちSAY

(性・生)の会は思春期の子どもたちにプログラムを伝える上で、いつも心に願うことそれは、子どもたちのからだと心の健康です。自分と他者のからだと気持ちを大切に、誰一人傷つくことないことを願って啓発活動をしています。今回の研修で学んだプレコンセプション・ヘルス・ケアを心に留め、2020年度も子どもたちに会いに行きます!(^^)!

(ほりちゃん)

性の健康世界学会(WAS)による性の「権利宣言 2014年改訂版」より

「人は誰も、教育を受ける権利、包括的な性教育を受ける権利を有する。包括的な性教育は、年齢に対して適切で、科学的に正しく、文化的能力に相応し、人権、ジェンダーの平等、セクシュアリティや快楽に対して肯定的なアプローチをその基礎に置くものでなければならない。」



おとなになるみんなへ

れんあいシンドローム

- 恋愛幻想から離れてみる
- 意思決定できる自分になる
- 境界線を知る

性と生きるについて考える  
～大切なからだ&気持ち～

NPO法人えんぼわめんと堺/ES  
SAY(性・生)の会

自分の性は  
自分で決める**権利**がある



## プレコンセプションケア・チェックシート (女性)

- 将来の妊娠・出産やライフプランについて考えてみよう。
  - 適正体重をキープしよう！
  - 禁煙する。受動喫煙を避ける。
  - アルコールを控える。
  - バランスの良い食事をこころがける。
  - 食事とサプリメントから葉酸を積極的に摂取しよう。
  - 150分/週運動しよう。こころもからだも活発に！
  - ストレスをためこまない。
  - 感染症から自分を守る。 (風疹・B型肝炎・C型肝炎・性感感染症など)
  - ロクソチン接種をしよう。(風疹ロクソチン・インフルエンザロクソチンなど)
  - 危険ドラッグを使用しない。
  - 有害な薬品を避ける。
  - 生活習慣病をチェックしよう！ (血圧・糖尿病・検尿など)
  - がんのチェックをしよう！ (乳がん・子宮頸がんなど)
  - 持病と妊娠について知ろう。(薬の内服についてなど)
  - 家族の病気を知っておこう。(生活習慣病・遺伝疾患など)
  - 歯のケアをしよう。
  - がかかりつけの婦人科医をつくらう。
- ※転載される場合には、引用元を明記し当ページのリンクを貼ってください。

## プレコンセプションケア・チェックシート (男性)

- パートナーと、将来の妊娠・出産やライフプランについて考えてみよう。
  - 適正体重をキープしよう！
  - 肥満は生活習慣病や心血管病の原因となります。また、肥満は男性不妊と関連することがあります。急なダイエットではなく、バランスのよい食事と適度な運動を日常生活に取り入れて、健康的なダイエットをこころがけましょう。
  - だばこや危険ドラッグ、過度の飲酒はやめよう。
  - 受動喫煙は低出生体重児の原因になることがあります。また、だばこや危険ドラッグ、過度の飲酒は男性不妊の原因になるため注意が必要です。
  - ストレスをためこまない。
  - 感染症から自分とパートナーを守る。
  - (風疹・B型肝炎・C型肝炎・性感感染症など)
  - ロクソチン接種をしよう。
  - (風疹ロクソチン・おたふくかせロクソチン・インフルエンザロクソチンなど)
  - 自分と家族の病気を知っておこう。
  - 生活習慣病や遺伝性疾患などは、生まれてくる赤ちゃんにも影響を与える場合があります。自分と家族の病気を知っておきましょう。
  - パートナーと一緒に健康管理をしよう！
  - パートナーが将来の健康や妊娠のために食事管理をしていたら、一緒にバランスのよい食事をとって健康になりましょう。もし、パートナーに持病があれば、定期的な通院をすすめ、サポートしましょう。
- ※転載される場合には、引用元を明記し当ページのリンクを貼ってください。

\* 1 2019年度 実績

子ども	おとな
大阪府立大冠高等学校 2年生 帝塚山学院中学校 3年生 大阪市立長谷川小学校 4.5.6年生 大阪市立長谷川中学校 1.2.3年生 大阪府立長吉高等学校 1年生 大阪狭山市立公民館 中学・高校生 大阪府立長野高等学校 1年生 子どもの里 中学・高校生 大阪府立高槻北高等学校 2年生 大阪府立豊中支援学校 中学部2年生 四天王寺小学校 1.2.3.4.5.6年生 大阪暁光高等学校 3年生 大阪府立堺西高等学校 1年生 大阪府立寝屋川支援学校 中学部3年生 大阪府立寝屋川支援学校 高等部1.2.3年生  以上 11校2団体 2170人  *大阪狭山私立公民館 小学生親子 →台風のため中止 *大阪暁光高等学校 1年生 →新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	大阪府立布施高等学校定時制 南大阪障がい者センター 和泉市立北池田小学校 堺市中区子育てひろば 大阪府立堺西高等学校 貝塚市立浜手公民館 大阪府立豊島高等学校 森ノ宮医療大学 大阪府立茨木支援学校 おたまじゃくし  以上 おとな 10団体（内6校小・中・高・大学教職員）554人  *はまでらおもちゃ図書館 →新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

子どもたちへ届けたい動画サイト紹介します。

アメリカの性教育 NGO が製作し、無料公開されている性教育動画「AMAZE」。

子どもたちが性の健康や豊かな人間関係について、年齢に応じて適切で楽しく信頼できる情報により学ぶようにアメリカの NGO「AMAZE.org」によって製作されたものです。AMAZE の動画は様々な言語に翻訳され、世界中の子ども・若者や保護者、教育・医療関係者に活用されています。

<https://www.youtube.com/user/pilconvideo>

AMAZE 性教育動画 で検索



CONSENT for Kids で検索



## HR (Human Rights) プロジェクト

HR プロジェクトでは、「エンパワメント」「エモーション」「セルフエスティーム」「コミュニケーション」の4つの柱を大切にしながら、子どもたちの“聴く姿勢”を育み、お互いを理解し、相互尊重につながる人権プログラムを提供しています。

今年度は、子ども対象ワークショップ、おとな対象ワークショップともに、感情をベースにしたプログラムの要望が多かったように思います。

子どももおとなも、感情表現が苦手、怒りの感情はやっかいで扱いが難しい、周りの顔色ばかり気にして気持ちが伝えられず、ためこんでしまうことも多いと感じています。

小学校低学年では、表情カードを使って「気持ちをあらわす言葉さがし」をします。語彙をたくさん知り、言葉での表現につなげるためです。「うれしい」「たのしい」「ワクワク」「ヤッター」「いや」「悲しい」「せつない」「うひょー」「むかつく」「イライラ」「げきおこ」etc…黒板に書ききれないほど、バラエティーに富んだ言葉が出てきます。(おとなは少し苦手かも…🌀)

時には、「このやろー」「殺すぞー」など、子どもたちには使ってほしくない言葉も出てきます。

子どもたちの友だち関係を見ていると、「死ね」「消えろ」「うざいわ」「キッショ」などの言葉が、しょっちゅう飛び交っています。何気なく、使っているこの言葉を、一体どこで誰から学んだのかな?と気になります。

いま流行のオンラインゲームでも、ゲームをしながら「殺す」「死ね」なんていう言葉が頻繁に飛び交い、傷ついている子どもや、そこからトラブルになっていることもあります。

日常生活の中でも、ムカついたから相手を殴った、暴言はいた、衝動的に手が出たという子ども、また、やられたらやり返せと言われていたという子どももいます。

ワークショップでは、「自分がどんな時にこんな気持ちになる?」「思い通りにならない時どうする?」「自分も相手も大切にするために何が出来る?」など、感情をベースにロールプレイをしながら一緒に考えていきます。自分の気持ちに向き合うことが苦手な子どもも、ロールプレイでは客観的に見て、考えることができるようです。自分の感じた気持ちをどう伝えるか?クラスでのやりとりで、言い方によっても人を傷つけてしまうことがあることにも気づいていきます。そんなとき、「じゃあ、〇〇さんならどんなふうに言う?」と実際に声に出してもらいます。「すごいね!」「上手に言ってくれたね」「〇〇さんの気持ちが伝わったわ」と認めていくことで、子どもたちをエンパワーし、相互尊重から、自信につなげていきます。

今年、ある中学校に生徒向けワークショップに行った時、以前小学校1年生から4年生まで「エンパワメント授業」で感情のワークショップを繰り返し実施していた生徒たちに再会しました。

授業の中で「暴力にあった時どんな気持ちになる?」と問うと、たくさんの感情をあらわす言葉を言ってくれました。「いや」「悲しい」「いたい」「苦しい」「イラッとする」「関わりたくなくなる」etc…数年前、中学生に何をきいても「さあ?」「別に」という言葉がどこに行っても出たときに、がく然としたことがあったので、とても嬉しい気持ちになりました。

また、「腹が立ったときにどうする?」と問うと、「音楽きく、歌う」「やわらかい物をなぐる」「好きなことをする…ゲームとか部活とか」「友だちに話す」など、自分の解消法もたくさん話してくれました。HRのワークショップでは、一年に1,2回の限られた時間の中での実施ですが、今を生きている子どもたちが毎時起きてくる感

情について、即生活の中で実践し行動につなげてくれていたことも、嬉しかったです。

2020年4月1日の改正児童虐待防止法、改正児童福祉法では、「体罰等によらない子育ての推進について」が盛り込まれ、セーブザチルドレンでも「たたかない、怒鳴らないポジティブな子どもとの向き合い方」が推奨されています。おとなも感情の扱いがポイントになるということですね。

感情リテラシーや、アサーティブネスなど人間関係作りの本も多数出されている八巻香織さん（NPO 法人 TEENSPOST 代表理事）は、「怒り」は“こうしたい”“こうしてほしい”（のにそうならない）ときの欲求不満をあらわす感情だと言っています。「自分はどうしたいのか」「どうしてほしいのか」の欲求を伝えてくれる大切な感情だと・・・

“さびしい”“つらい”のにわかってもらえない、“いや”と言いたいけど嫌われるのがこわい、自分の気持ちを抑え込んだり、なかったことにするのではなく、子どももおとなも「自分はどうしたいのか?」「相手にどうしてもらいたいのか」を言葉で伝えることができたらと思います。

「いや」と感じたときは「いや」と言ってもいい、「つらい」とき「つらい」と言ってもいい。「腹が立つ」こともちっとも悪くない。社会もこういう気持ちを受け入れられる環境であってほしいです。子どももおとなも、自分も相手も大切に作る関係性を築くために、『感じて、考えて、行動する力』を、育んでいきたいです。もちろん、わたし自身も・・・

by ありちゃん





<p>教育関係</p>	<p>—子ども対象（クラス単位）—</p> <p>&lt;堺市&gt; はつしば学園小学校（2年生3クラス、4年生3クラス、 5年生3クラス、6年生3クラス）</p> <p>&lt;豊中市&gt; 西丘小学校（1年生～6年生全学年20クラス）</p> <p>&lt;箕面市&gt; 豊川北小学校（5年生2クラス）</p> <p>&lt;柏原市&gt; 国分小学校、国分東小学校（4年生3クラス）</p> <p>&lt;大阪市&gt; 三軒家西小学校（1年生～6年生全学年6クラス） 大阪府立桃谷高等学校定時制（1年～4年） 望之門保育園（年長児）</p> <p>&lt;大阪狭山市&gt; 大阪狭山市立公民館ティーンズ勉強会（小5～高校生）</p> <p>—おとな対象（教職員・PTA）—</p> <p>豊中市立西丘小学校PTA地区懇談会 株式会社学研エデュケーショナル 堺市立東深井小学校PTA</p> <p>—子どもとおとな対象—</p> <p>大阪狭山市立公民館親子ワークショップ</p>
<p>子育て支援関係</p>	<p>—おとな対象（一般）—</p> <p>堺市西区子育てサロン「おたまじゃくし」 はんなん子育てネットワーク（西取石公民館） 阪南市 WAVEOZAKI 子育て支援部 堺市土師校区福祉委員会</p>
<p>その他</p>	<p>—おとな対象（一般）—</p> <p>認定NPO法人シニア自然大学校 （子ども指導者養成講座入門コース2回、発展コース2回） チャイルドラインいずみ養成講座 大阪府立大型児童館ビッグバンクルー養成講座</p>
	<p>*新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止になったワークショップ</p> <p>泉南市立鳴滝小学校（3年生1クラス） 箕面市立東小学校（4年生2クラス） 堺市中区子育てひろば「うきうきルーム」</p>



## 中区子育てひろば

「一人じゃないよ！」のコンセプトで、始まったひろば活動も5年目になった。  
子どももおとなも尊重される子育ての場を創りたい…そんな思いで開設している。



私たち NPO 法人えんぱわめんと堺/ES は、子どもの人権を軸にエンパワメントの関りを大事に 1997 年から活動をしている。長年、教育現場や地域・福祉関係の場で多くの子どもたちと出会ってきた。そんな中で「どうせ僕なんかあかんねん」「もう…私は何をやってもダメやもん」と、何もかもに無力感・無能感で自己否定する子ども。また「だれもわかってくれない」「信じられない」と孤独感や不信感で一人である子どもをたくさんみてきた。そのつど、一人ひとりに向き合っ、「そんな気持ちになるときあるよなあ～」と振り返り「何ができるか考えよう」と促し、エンパワメントの関りを大事にしてきた。すべての子どもにエンパワメントの関わりで活動が続けているが、すべてとは計り知れず、若者の犯罪や暴力、デートDV やひきこもりなど多岐にわたる。若者の課題がどこから始まっているんだろう？高校時代は？中学時代は？…また小学校時代は？と教育の場を問われたり、家庭を問われたり、親の育て方が問われ、行き着く先は親のせいではと、誰のせいかを探そうとする。そんなスポットをあててほしくはない。個人を責めるのではなく、家庭でも教育現場でもない、また若者の問題だけでもない、社会の課題、社会の問題として私たちは捉えている。

多様な家庭環境がある中で、子どもは地域で育もう、子どもと身近にいるおとなとして・・・

そう！子育て支援！「一人じゃないよ！」のメッセージを掲げて手をあげた。

これまで培ってきたエンパワメントの関りの経験を活かし、仲よしこよしを創るのではなく、困っているのはあなた一人じゃないよ。しんどいのはあなただけじゃないよと。

共感し、安心してつながれる場をめざしている。

昨年度からスタートした△△タイムでは、ひろば内の壁に映し出される映像を観たり、音楽や楽器の音を聴いたり触れたりしながら、ふわふわ・きらきら・スースーなどを体感し五感を意識する数分間。

その短時間の中で感じる感覚もイメージも、一人ひとりさまざまである。

心地よく感じる音が、人によっては苦手だったり、子ども達の反応やおとなどうして共感することもあるが、新しい発見や自分に気づく機会にもなっている。

一人ひとりのちがいをお互いが知る。ちがっていいんだと認める。

認められた時の気持ちが、おとなも子どもも安心につながっていく。

赤ちゃんも「いないいないばあ」のあそびの中からも安心がスタートする。

そして安心できる場のひろばでの〇〇ディ。

ぐちゃってもいいディ、泣いてもいいディ、ことわってもいいディ、息ぬいてもいいディなどから、たくさんの「いい」に気づくことで、一人じゃない！のおもいが、地域から社会に広がると信じている。

家から一歩踏み出し、初めての社会の場であるうきうきルームが、おとなも子どもも尊重され安心していられる場、空間であるように、これからもスタッフとひろばで出会えるみなさんと一緒に創っていきたい。

(おおさこ・きたの)





### 堺市男女共同参画推進講師派遣事業

「SDGsとはなにかーその概要と男女共同参画・子どもの権利との関係ー」

講師：岡島 克樹さん（大谷大学人間社会学部教授）

SDGs 未来都市・堺という、旗やポスターをよく見かけるようになったけど、なんとなくわかるような、わからないような・・・SDGsって何か？

SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」色々ある地球規模課題に対応しようとする事。今までの取り組みだけでは限界があり、発展途上国だけでなく先進国も、企業・団体はもちろん、個人も全ての人が2030年のアジェンダに向けて進みだすことが必要ということ。座学だけでなく、SDGsのカードゲームをグループで体験し、様々な課題を体感して学ぶことができた。例えば、温暖化問題。ほかの国の問題ではなく、いつか自分にも降りかかってくる課題。ウイルスの問題も同じ。世界的に解決していかないといけない課題に対して、項目をいろいろ分けていくことで達成していない課題が見えてくる。

教育のラスト5%問題ー初等・中等教育への就学率、学校の建設や子どもが働かなくて良いように環境を整備したとしても、社会の考えの中で「障害があるので」、「女子だから」という理由で就学させない問題がある。

いじめを目撃した時に関わらないようにする生徒の割合ー日本は小学高学年から中学3年まで上昇のままであるが、オランダイギリスでは、中学で「公助」「共助」の学習することで割合を減少することに成功している。SDGsが言う「パートナーシップ」「連携」とは「他人事」だったことを「自分事」にするだけでなくさらにどう他者とつながり、「公助」「共助」の強化につなげていくのかを問うきっかけも提供してくれている。

SDGsは、MDGsから引き継がれたもので元々をたどれば世界人権宣言や国際人権規約、国際人権条約（子どもの権利を含む）からつながっている物なので、「人権」ベースである。子どもに関わる活動をしていて日々感じる子どもの様々な課題に対してSDGsの話を交えて、「人権」の視点から見える課題と達成したいゴールを話しできるようにしたいと思った。堺市はSDGs未来都市として選定されている。「誰も取り残さない」というスローガンの達成に向けてさらに啓発、行動できるようにしたい。社会を変えて行くのは、簡単ではないけど、世界的に取り組んでいることを広めていくことや、日本のランキングを知らせていくことで、意識が変わっていけると思う。

（Taepon）

#### 《参加者からの感想》

- 教育現場で協働を目指す話をしているのが間違っていなかったと思った。
- 「自分が大切だということが根本」「『他人事』を『自分事』にし、個人の行動を変えていく」という言葉が印象に残った。
- SDGs 17のGoalsの中で、この項目は自分には関係ないかも？と勝手に決めていたが、全てがつながっていると感じた。整理して考えたり、特徴について詳しく教えて頂くことで理解が深まった。
- 開発の人権基盤型アプローチのプロセスがわかりやすかった。開発とはどういうことか、人権侵害が起きていないかしっかり意識していきたい。
- 今、世界からみてジェンダー意識も低いとしたら何ができるか考えたいと強く思った。

●社会的コンピテンシーという言葉をはじめて知った。社会にどう適応していくかだけではなく、自分自身がSDGsに興味関心をもち、社会を尊重していく役割として子どもの人権尊重のために活動していきたい。また、出会った子どもたちにもその力があることを伝えていきたい。

●日本の教育進路は変革的コンピテンシーと真逆の方向に進んでいく方向に、圧倒的に強力で推進している。

●人権をベースに他者に目をむけ、自分のできることから積み重ねていくことで、つながっていく。産まれた時から違う（経済面、家族構成、家族の学歴、国籍、障がいの有無、住んでいる場所など）スタートラインに立って進んでいくことを意識していかないといけない。



## 令和元年度地域における男女共同参画推進を支援するためのアドバイザー派遣事業

「子どもが安心して暮らすために～虐待・DVをなくすために～」

講師：市場恵子さん（社会心理学講師・心理カウンセラー）

いま、私たちにできること

2020年2月9日、昨年度に引き続き今年度も市場恵子さんを堺へお招きしました。市場さんは、岡山県で社会心理学講師、心理カウンセラーとして様々な現場でご活動されており、今回は「子どもが安心して暮らすために～虐待やDVをなくすために、私たちにできること～」をテーマにお話をして頂きました。



子どもたちが今を安心して生きるために、子どもとの日々の関わりの中でおとなにできることは何でしょうか。私は子ども支援の仕事をしています。過去に、私が関わっていた子どもたちの中に、幼少期に面前DV等の虐待を受けて育った小学生に私は出会いました。その子が日々発する攻撃的な言葉や自分を守るための嘘や妄想からは、安心とはほど遠い過酷な環境下で育ってきたことは計り知れませんでした。私は、市場さんのお話を聞いて、日々の子どもとの関わりの中から、草の根で直接的にできるアプローチを探したいと思います。

支援の活動をしていると、権利の侵害を疑うような危険な事態を目の当たりにすることがあります。ある日、いつも顔を合わせている子どもの保護者の〇〇さんが、場面的に突然にして子どもへの加害者に変貌する瞬間に出会いました。とっさの出来事だったため、驚きました。子どもにとっての危機的な場面に遭遇した時に、子どもの安心を守る立場として「一緒に住んでいたらそんな時もあるよね」などと見過ごすことはできません。多くの家庭内暴力のケースを考えると、その後も繰り返し子どもが被害に遭うリスクが高いことは明確

です。「あの時に第三者に繋いでいけば・・・」と手遅れにならない前に、自体を単純に夫婦げんかだ親子げんかと軽視せずに、子どもにとっての最善の対応を考える必要があります。

たとえこれまでに、私が知っている〇〇さんは穏やかで・・・と認知していたとしても、それはその人の一面であり、状況と環境が変われば加害者になります。DVと虐待をファミリーバイオレンスとして、多面的に見た時、ある場面では〇〇さんは加害者であり、ある場面では〇〇さんは被害者といった暴力の連鎖に気がつくのは、もっと後の認知になることもあります。

とりわけ、子どもの支援をしている場合、子どもの背景に養育者、きょうだい、親戚などの子どもを取り巻く様々な人と支援者が関わる場面も多くあります。DVや虐待に対して、家庭内の一面を見た時に、家庭内の多様な場面において、被害者、加害者が流動的であることを前提に、被害に遭いやすい子どもを第一にエンパワーしながら、突然にして出会うかもしれない複合的な暴力に対しての慎重なアプローチが必要です。

面前DVや虐待などの被害が日常化する前に、また暴力がエスカレートする手前に、過酷な環境下にいる子どもへ今、自分に何ができるでしょうか・・・。

今後、子どもにとっての危機を目の当たりにした時、流動的な加害者や被害者の複合的暴力の実態を心において、子どもの安全を最優先に、市場さんが①～④に示されているような、目の前の人に寄り添った支援を目指したいです。

#### いま、私たちにできること

①被害者の話を信じて聞く（責めない。静聴・傾聴・受容する）

「よく話してくれたね」「あなたの話を信じるよ」

②被害者の感情表現を助け、共感する。（同情や同調ではない）

「つらかったね」「よく凌いできたね」「大変だったね」

③情報や選択肢を提供する（選んだり決めたりするのは被害者自身）

「何ができるか一緒に考えよう」「～することもできるよ」

④暴力や差別の傍観者にならない（被害者を100%支援）

「悪いのはあなたではない！」「あなたはひとりじゃない！」

※上記①～④市場さんのレジユメより引用

子どもたちにとって、日頃抱えている不安や恐怖の小さな種が小さなうちに、信頼して話ができるおとなの存在が一人でも身近にいることが大切だと私は実感しています。場が安心できる環境でこそ、子どもは自分で信頼できる相手を選んで「怖かってん」「嫌やってん」と溜まっている気持ちを吐き出します。だからこそ、子どもの支援をする役割として、普段の関わり合いの中で、子どもとの信頼関係を構築していくことが求められていると感じます。これからも継続的に私に今できることを考え続けます。

(めろんぱん)



## 新型コロナウイルス感染拡大防止による休校へのESの取り組み

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、3月2日から13日まで、小中高支援学校が休校。また、学童保育、子育てひろばも閉室と決まった。

その後、学校での受け入れや学童保育預かりが実施されたものの、学校再開の延期が続き春休みに突入した。

2月末、私たちは予定していた講座や研修がキャンセルになった会場で話し合い、休校中、家の中でひとり留守番をしている子どもたちは、どんな気持ちでいるだろう。

どうすれば少しでも安心につながることを伝えられるか、どんな方法があるか何かできることはないかと考えた。集まれない、直接会えない、そして今すぐに必要だということ。時間的にも制約のある中で知恵を絞り、地域にメッセージを届ける方法として掲示板にポスターを貼ることにした。

数年間、全部の小学校でCAPプログラムを継続実施してきたことで、このポスターを見た若者や多くの人が、「わたしたちは安心して生きる権利がある！自信を持って、自由に生きていいんだ！」と思い出してくれるかもしれない・・・、休校が長引き、困窮でたいへんな親や子どもに、今一度思い出してほしい、そして初めて聞く人にも知ってほしい。

・・・地域で、みんなで、コロナなんかに屈せない。気持ちだけでも取り戻すエンパワメントの関わりを表示することにした。

2日後にはポスターが仕上がり、青パトや地域の放送でもメッセージを伝えてもらおうと、文言も決まった。日頃CAPスペシャリストとしての私たちは、利害関係のないおとなとして、子どもたちと出会うために、地元校区でのワークショップ活動ができない。

だが今回は違う。

堺市7区の地域にいるメンバーができることを考えてそれぞれが地元で動き出した。

地域の自治会、連合、防犯、子ども会、民生、民生児童のあらゆる人に声をかけて、ポスター掲示のお願いにまわった。ある民生児童委員の方は、「これまで長年、民生にかかわってきたが、どれだけのことができたかわからない。今回の活動に参加できることで、児童民生委員として役立ててうれしい」と。そして、横つながりで活動を広げてくださり、多くの賛同をいただいた。

CAPのことは初めて知ったという方も、「子どもたちが、自分たちのことを考えてくれているおとなの人が、この地域にいると知ることで安心につながる」という今回のおもいに共感いただいた。

自治会で話し合い、地域にあった動きを検討、印刷や掲示もお任せすることになった。

掲示板の場所案内や、毎日地域でメッセージを放送したり、風でとばされたポスターがないか見回り、貼りなおして下さったことも。

学校の門や、団地の掲示板、ケーキ屋さん、お米屋さんをはじめ、個人的にも掲示して下さった。

犬の散歩をしながら「こんなポスターを貼ってくれている人がいて嬉しかった」と声かけてくれた方も。

たくさんの協力をいただき、草の根運動に賛同、地域のネットワークの心強さを感じた。

また、教育現場以外でのCAP周知の必要性も感じ、個人的にも多くの気づきや学びを得る機会となった。



大きなピンチから、何かできないかとすぐに声があがった。

できあがったポスターや放送の文言を色々な立場にたって検討を重ねた。

フェイスブックやホームページを観てポスターを地域へ届けてくれた。

地域に届けたポスターが、次の日にはカバーをかけて、大切に掲示されていた。

あわただしく過ぎた今、感謝のおもいで気持ちがあたたかくなる。

いまだ心配な状況は続いているが、この記事を読んでいただく頃には、どうか収束してしてほしい。

一人ひとりが安心して過ごせていることを願い、自分の行動を意識しながら、日々過ごそうとおもう。

by さこちゃん



## 大阪マラソン応援のお礼

2019年12月1日 第9回大阪マラソンに、えんばわめんと堺/ESより、チャレンジパートナー「わが町にしなり子育てネット」(団体活動内容「子どもの権利、子どもの育つ力、子どもを育む力・支える力を支援」)のチャリティーランナーとして、フルマラソンに参加しました。

42.195キロ完走できたメンバーや自己最高の距離を伸ばせたメンバーなど、

それぞれがそれぞれに頑張りました!! 苦しい時の応援が、とても大きな力となりました。

寄付して下さった方々、メッセージを送って下さった方々、沿道で声を張り上げて励まして下さった方々、わが町にしなり子育てネットのスタッフの方々、大会関係者方々、みなさまに感謝です。ありがとうございました!

りんママ・ほりたか・きみちゃん・ほりひろより



### \*ローズカーニバルについて\*

今年も、浜寺公園で開催されるローズカーニバルのフリーマーケットに参加する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ローズカーニバルが11月8日(日)に延期になりました。

今年もご寄付やフリーマーケットに出品する品物の提供など、ご協力をよろしくお願いします。

フリーマーケットでの売上金や寄付金を利用して、子どもたちにワークショップを届けます。



	子どもワークショップ									おとなワーク ショップ	
	小学校			幼稚園・保育所			中学校			回数 (教職員)	人数 (教職員)
	校数	クラス 数	人数	校数	クラス 数	人数	校数	クラス 数	人数		
10月	18	47	1421	0	0	0	1	5	156	20 (19)	81 (73)
11月	14	38	1232	0	0	0	3	12	410	18 (17)	78 (76)
12月	10	20	583	1	1	23	0	0	0	12 (11)	37 (32)
1月	9	24	721	2	2	46	0	0	0	12 (11)	45 (37)
2月	1	2	51	1	1	29	2	7	244	5 (4)	27 (18)
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (0)	0 (0)
合計	52	131	4008	4	4	98	6	24	810	67 (62)	268 (236)
年間	93	235	7280	5	6	151	7	26	862	122 (110)	629 (496)

☆その他団体 2団体 子どもワーク 3ワーク 34人

えんばわめんと堺/ES の取り組みや講演や研修のお知らせなどを  
メールでも送らせて頂きます。

メールでの送信をご希望の方は、下記の QR コードにアクセスして、送信してください。  
ホームページのお問い合わせ画面につながります。その際、お名前・メールアドレスと、  
件名に（例）「研修など」・内容に（例）「案内希望します」とご記入ください。QR コードが  
読み取れない方は、[empowerment@lily.ocn.ne.jp](mailto:empowerment@lily.ocn.ne.jp) にメール送信してください。なお、迷  
惑メール対策で、ドメインまたはメールアドレスの受信・拒否を設定されている方は  
「empowerment@lily.ocn.ne.jp」からのメール受信を許可に設定してください。



## 第18回 ES総会 ご案内

☆日時： 2020年5月16日(土)  
10:00～  
☆場所： 堺市産業振興センター  
セミナー室1



新型コロナウイルス予防対策のため、余儀なく変更となる場合もあります。ご了承ください。(2020年4月末現在)

### 会員募集～入会手続き～

正会員 5,000円

(初年度のみ入会金3,000円)

賛助会員 1,000円(入会金なし)

- ◎ 更新日は年2回(1月31日・8月31日)です。
- ◎ 会員有効期間は1年です。
- ◎ 郵便振替～通信欄に必要事項をご記入ください。

加入者名 特定非営利活動法人えんぱわめんと堺  
口座番号 00920-9-182116

正会員 27名

賛助会員 60名(73口)

寄附金 154,100円

2020年3月現在

ESの活動はみなさまからの寄付、  
ご支援にささえられています。  
今後ともよろしく願いいたします。

〒599-8244 堺市中区上之801番5号  
特定非営利活動法人えんぱわめんと堺/ES  
TEL:072-230-5588 FAX:072-230-5589  
E-mail: [empowerment@lily.ocn.ne.jp](mailto:empowerment@lily.ocn.ne.jp)  
<http://www.npo-es.org/>

ホームページも見てね



### 編集後記

コロナウイルス予防のため、桜が咲いても切なく感じて、春を満喫できず、閉塞感の毎日。  
感染はもちろん怖いけど、差別や排除や感染者が悪者にされたり、人の心が荒むことがもっと怖いと感じます。  
われ先にとトイレトーパーを買い占めるおとなの姿を、子どもたちはどんな風に見てるんだろう？  
休校は長引き、授業のスタートは5月を迎える。新しい級友や先生が代わる、不安な気持ちで新学年になった子や、卒入学や就職などの節目を十分に感じられないまま、新しい環境を迎えた子も、しんどい子もいっぱいいるだろう。休校へのESの取り組みは、今までの活動が地域でどう位置づけられているかを考えることにもなった。この際「3つの密」を守りながら、1クラス20名にして、先生の数を増やして個々の負担を減らし、1人ひとりの境界線を守りながら学べる機会になればいいのになあ～と思う。(しおさぎ)